

「新人目線」の用語解説

# 語句よみ

第245号



今回のテーマ **世界的に求められている、社会人の学び直し**

日興アセットマネジメントの新人。営業推進部門に配属され、投信や経済について勉強中。

社会の変化に対応するため、社会人の学び直しへの関心が高まっており、こうした動きは今後さらに加速することが予想されます。今回は「リスキリング(reskilling)」と「リカレント(recurrent)教育」について調べてみました。

## 1. リスキリング(reskilling)

「リスキリング(reskilling)」とは、スキルを学び直すことをいい、具体的には、新しい職業に就くために、あるいは、今の職業で必要とされるスキルの大幅な変化に適応するために、必要なスキルを獲得する／させることを意味します。リスキリングを行なう企業のメリットとしては、新しいスキル・知識の獲得による斬新なアイデアの創出や業務の効率化、教育の場を提供することによる従業員の定着とそれに伴う企業文化の継承促進などが挙げられます。

リスキリングへの関心は世界的に高まっており、そのきっかけは、2020年1月の世界経済フォーラム(WEF)年次総会(ダボス会議)です。そこでは、2030年までに全世界で10億人にリスキリングの機会を提供することを目標に掲げた「リスキリング革命」が発表されました。その後、新型コロナウイルス感染拡大に伴うDX(デジタル・トランスフォーメーション)の進展などにより、労働者に求められるスキルが変化し、リスキリングの必要性はさらに高まっているといえます。

実際に、海外企業では取り組みが活発化しており、2013年から2020年までに10億米ドルを投じて約10万人の社員にリスキリングを実施した事例や、キャリア開発支援ツール、学習支援プラットフォーム

### ステップアップ

日本では、リスキリングを社会全体で推進するために、2022年6月、官民連携による「日本リスキリングコンソーシアム」が、同年8月には、「人的資本経営コンソーシアム」が設立されています。



(次のページへ続きます)

■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目録見書)をご覧ください。

ムの提供、それらの活用による非技術系従業員の技術職への配置転換などの事例が見られます。

日本では、岸田首相が2022年10月3日の所信表明演説において、人への投資に5年間で1兆円を投資することを明らかにしました。また、同月12日には、リスクリング支援の3本柱として、①転職・副業を受け入れる企業や非正規雇用を正規に転換する企業への支援、②在職者のリスクリングから転職までを一括支援、③従業員を訓練する企業への補助拡充が発表されており、新たな成長分野への労働者の移動促進、労働生産性の向上や持続的な賃上げの実現が期待されています。

このように、日本においてもリスクリングは注目を集めつつあります。しかし、依然としてリスクリングに対する認知度の低さや抵抗感、企業が従業員のスキルを正當に評価する仕組みが整備されていないことなどが課題であり、こうした課題を克服できるかが今後の焦点といえます。

## 2. リカレント(recurrent)教育

リスクリングに類似した概念として「リカレント(recurrent)教育」があります。「リカレント」とは、循環する、繰り返すことをいい、「リカレント教育」とは、学校教育を経て社会に出た後も、必要なタイミングで再び教育を受け、人生を通じて教育と仕事を繰り返すことを意味します。

リスクリングもリカレント教育も、社会人の学び直しという点では共通していますが、仕事と並行して必要なスキル・知識を学ぶ(リスクリング)のか、一旦仕事から離れて教育機関で学ぶ(リカレント教育)のかという違いがあります。

日本では、1992年に文部省(当時)がリカレント教育に関する各種提言をまとめるなど、理念として重要性が認識されていましたが、諸外国に比べていまだ普及しているとはいえません。その背景としては、教育を受ける時間や資金がない、学び直しが評価されにくい、希望通りの休暇取得が難しいことなどが挙げられます。一方で、労働力人口の減少や、長寿化に伴ない働く期間が伸びていることから、必要なタイミングで学び直しを行ない、新しい知識・スキルを習得し続けるリカレント教育の重要性はより一層高まっており、企業や労働者間での理解の拡がりとその早期の普及が求められます。

リスクリング、リカレント教育、いずれも普及にあたり課題はありますが、学び直しは、働き方や生き方の選択肢を増やし、人生の幅を広げます。年齢にかかわらず、社会の変化に合わせて、学び続けることは重要です！

### ステップアップ

リカレント教育は、スウェーデンの経済学者レーンによって提唱されました。その後、1970年に経済協力開発機構(OECD)で取り上げられ、1973年にリカレント教育に関連する報告書が公表されたことで、世界的に広く認知されました。



facebook twitter で、経済、投資の最新情報をお届けしています。

■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。